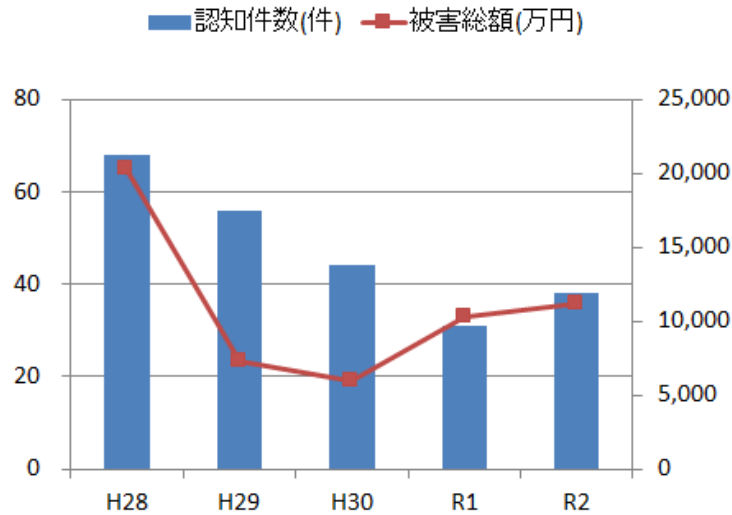


令和2年中における特殊詐欺の認知・検挙状況について

1 県内の認知状況

(1) 認知状況の推移

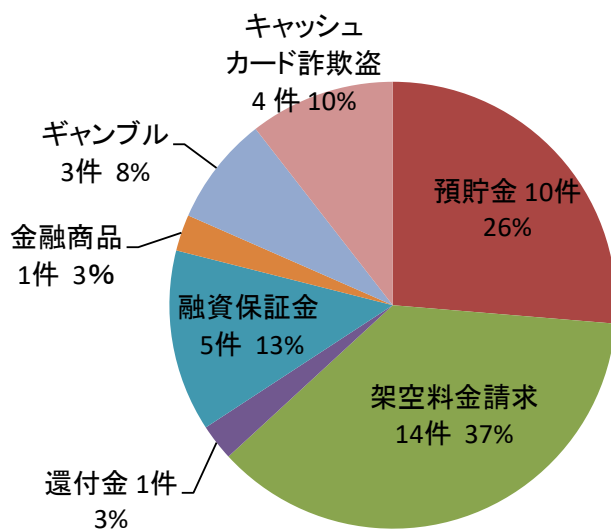


	H28	H29	H30	R1	R2
認知件数(件)	68	56	44	31	38
被害総額(万円)	20,318	7,233	5,969	10,280	11,174

※ 平成30年から、認知件数・被害額には窃盗（キャッシュカード詐欺盗）を含む。

- 平成28年から特殊詐欺被害は減少傾向であったが、令和元年から増加に転じて、昨年は2年連続で認知件数及び被害額ともに増加した。

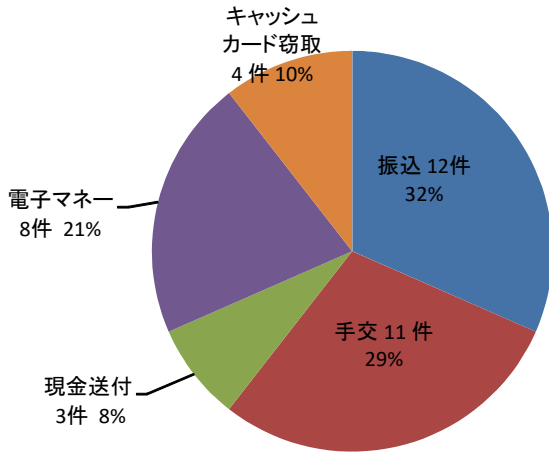
(2) 手口別の認知状況



	R1	R2	前年比
オレオレ	8	0	-8
預貯金	-	10	+10
架空料金請求	17	14	-3
返済金	1	1	±0
融資保証金	2	5	+3
金融商品	0	1	+1
ギャンブル	0	3	+3
交際あっせん	0	0	±0
キャッシュカード詐欺盗	3	4	+1
計(件)	31	38	+7

- 架空料金請求の認知件数が最も多い。(全体の37%)
- 令和2年から、オレオレ詐欺の手口が細分化され、預貯金詐欺の分類ができたもの。(細分化の詳細については「特殊詐欺の手口について」を参照)

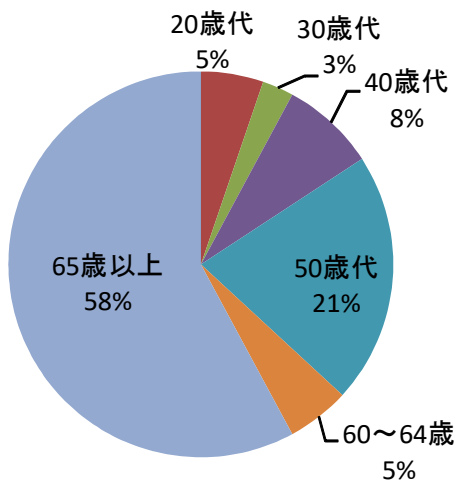
(3) 交付形態別



	R1	R2	前年比
振込	5	12	+7
手交	8	11	+3
現金送付	5	3	-2
電子マネー	10	8	-2
キャッシュカード窃取	3	4	+1
合計(件)	31	38	+7

○ 振込が最も多い。(全体の32%)

(4) 被害者の年齢



年代	R1		R2		前年比
	男	女	男	女	
10歳代	1	0	0	0	-1
20歳代	1	0	2	0	+1
30歳代	2	2	1	0	-3
40歳代	1	1	1	2	+1
50歳代	1	3	4	4	+4
60~64歳	0	1	1	1	+1
65歳以上	6	12	4	18	+4
合計(人)	12	19	13	25	+7
	31		38		

○ 65歳以上の高齢者の被害者が最も多い (全体の58%)

2 県内の検挙状況

区分	H28	H29	H30	R1	R2	前年比
検挙件数(件)	30	114	7	25	36	+9
検挙人員(人)	16	7	3	9	8	-1

○ 平成30年から、認知件数・被害額には窃盗（キャッシュカード詐欺盗）を含む。